

(パブリックコメントの意見募集結果)

さっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通計画（原案）についての意見募集結果

令和5年（2023年）6月16日

さっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通計画（原案）について、道民の皆様からご意見を募集したところ、2名から、延べ16件のご意見が寄せられました。
ご意見の要旨及びご意見に対するさっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通活性化協議会（以下「協議会」）の考え方については、次のとおりです。

意見の概要	意見に対する協議会の考え方※
<p>周知方法について 意見募集が、振興局のホームページで公表されているが、道庁のホームページや道民情報センターに資料が置かれていないのは、周知を図るうえで、不適切であると思います。 また、今後計画が策定された後、住民や一般の人へ、どのように周知するつもりですか。</p>	<p>本計画の意見募集については、道民、特にさっぽろ連携中枢都市圏の住民の皆さまから広くご意見をいただくため、石狩振興局及び構成市町村のホームページ等や石狩振興局のフェイスブック、北海道の公式ツイッターを用いて広報を行いました。 計画策定後は、石狩振興局及び各構成市町村のホームページで公表し、協議会事務局（石狩振興局地域政策課）の執務室でも閲覧できるようにします。</p>
<p>協議会組織の体制等について さっぽろ連携中枢都市圏の事務局が札幌市ですが、協議会の事務局が石狩振興局なのはどうか。 また、協議会に学識者や国・道庁の本局・本庁が加わるべきだと思います。</p>	<p>本計画はさっぽろ連携中枢都市圏の要請に基づき道と共同で作成するものであり、圏域内のみならず他地域の市町村や交通事業者など様々な関係者の調整が必要となるため、広域自治体である北海道石狩振興局が事務局を担っています。 また、地域をとりまく公共交通の現状は日々変化していることから、計画策定後も継続して本地域の公共交通の課題を洗い出し、必要に応じて、課題に対応した構成員を追加することを検討します。</p>
<p>今後の活用方法等について コンサルタント会社を入れて調査をしていることは、資料的価値はあると思いますが、今後、この計画をどのように活用するのか分かりません。 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」は再度改正されることが決まっている中、改正内容を本計画にどの程度反映させるかが不透明であり、改正に合わせて計画も修正する予定ですか。</p>	<p>計画策定後においても、毎年度協議会を開催し、本計画に掲げたPDCAサイクルにより評価・検証を行うなど計画の推進管理を着実にしながら、本計画に位置付けた施策・事業を実施し、本年4月に公布された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」への対応を含め、基本方針の実現に向けて取り組みます。</p>

<p>計画全体について、一般利用者の目線が不足しているのではないか。</p>	<p>本計画の策定に当たっては、本地域の住民や高校生を対象にしたアンケート調査等を行い、実際の利用状況や利用者ニーズを踏まえて、路線の維持・確保方針や施策・事業を設定しています。</p> <p>今後も様々な機会を通じて利用者ニーズの把握に努め、持続可能な広域交通ネットワークの維持・確保に向けて関係者間で連携した取組を進めてまいります。</p>	C
<p>札幌市は政令市であり、一極集中している状況の中で、本計画が自治体を跨いだ人の流動を取り上げた点で、一定の成果はあるが、札幌市が果たすべき役割もかなりのウエイトを占めると思われますが、実際のところ記載はありません。</p> <p>P. 20でも、札幌市を「中核都市」、それ以外を「中核都市群」としているが、それぞれの役割を明確に記載してはどうですか。</p> <p>また、札幌市が定める「地域交流拠点」とその選定の妥当性についても、本協議会の中で議論すべきではありませんか。</p> <p>例えば、札幌市内の乗り継ぎ拠点の環境や乗り継ぎ割引きの適用範囲等の状況について言及されていません。</p>	<p>ご意見のとおり、本地域では札幌市を中心に交通ネットワークが構築されていますが、本計画においては、P. 20で整理している本計画における公共交通の位置付けも踏まえ、路線に関わる全ての関係者の役割を整理し、それぞれが主体的に取り組むことで、持続的な公共交通ネットワークの構築を推進していくこととしています。</p> <p>また、本計画は国・道・市町村の上位・関連計画を踏まえて作成しており、一部の「地域交流拠点」についても乗換拠点のひとつとして、P. 109に位置付けた接続性の強化や乗換に係る利便性の向上に係る取組を行うこととしておりますので、いただいたご意見については、今後、交通結節点に係る検討を行う上での参考とさせていただきます。</p>	C
<p>札幌圏では、JRと市営交通の連携が、乗換の不便性や交通系ICカードの非互換・利用不可路線などの点で、全国でも稀にみる悪さと指摘されていますが、それについても取り上げるべきではありませんか。</p>	<p>ご意見のとおり、乗継ぎの利便性の確保は本地域における重要な課題のひとつであることから、交通事業者をはじめとした関係者が連携を図り、利用者の利便性・快適性の向上に向けた取組の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>検討対象が主にバスであり、鉄道についてあまり触れられていません。</p>	<p>将来にわたり公共交通を維持していくためには、住民の皆様の移動ニーズを踏まえた上で、通院や通学などの生活圏を考慮した広域的な計画を策定する必要があると認識しており、本地域では主に複数の市町村を結ぶバス路線を中心とした計画を策定しています。</p> <p>鉄道については、JR北海道が作成したアクションプランなどに基づき関係機関が連携を図りながら、利用促進などに取り組んでいくこととしており、本協議会においても、鉄道と他の交通モードとの連携など、持続的な公共交通の維持・確保に取り組みます。</p>	C

<p>「広域交通ネットワークの維持・確保に向けた協議・検討」について、JR石勝線および室蘭線の利活用を盛り込んでほしいです。この2路線で直通運転を行えば、一部で圏域外を跨ぐものの、空港のある千歳市と岩見沢市および道北方面を、札幌を経由せずに短絡して移動できます。</p>	<p>鉄道は、地域住民の通院・通学などの日常生活や、観光客などの来訪者の広域移動に利用されており、JR北海道が作成したアクションプランなどに基づき、関係機関が連携を図りながら、利用促進などに取り組んでいくこととしています。</p> <p>いただいたご意見については、今後検討を行う際の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>仙台市、広島市、福岡市など地方の中核都市圏の地域公共交通施策と比較してはどうですか。</p>	<p>本計画はさっぽろ連携中枢都市圏における地域公共交通のマスタープランとして、持続可能で地域に最適な公共交通ネットワークの構築に向けた方向性を取りまとめたものであり、今後も道内のみならず道外の自治体の計画や公共交通施策を参考にしながら、本地域の公共交通の利用状況や利用者ニーズを踏まえ、進めていくことが重要と考えておりますので、いただいたご意見については、今後の地域公共交通施策推進の参考とさせていただきます。</p>	C
<p>市の関連計画のページに、北広島市のボールパーク新駅について記載がないと思います。</p>	<p>北広島市内の新駅整備については、P. 16の「北広島市地域公共交通計画」及びP. 18の「JR北広島駅及びFビレッジ周辺地区交通戦略」に記載しています。</p>	E
<p>P. 56「市町村営等による公共交通」に北広島市の町なかバスや岩見沢市の万字線の代替バスが書かれていません。</p>	<p>生活圏交通については、P. 20のとおり、「路線バス（市町村内完結路線）」や「市町村営バス」等の市町村内の生活目的の移動に用いられる交通モードと定義していますが、本計画においては主に市町村が運営主体である交通モードを整理することとしております。</p> <p>そのため、北広島市の町なかバスや岩見沢市の万字線の代替バス等の民間事業者が運営する路線は掲載しておりませんが、掲載していない路線についても、必要に応じて、幹線・広域・生活圏交通の交通モード間の接続性の強化等、利便性・快適性の向上に向けた検討を進めてまいります。</p>	E
<p>アンケートや各種調査について アンケートや調査についての方法の記載や調査票等を掲載した方が良い。</p>	<p>ご意見のとおり、調査の詳細を明らかにするため、本計画の付属資料に調査票を追加します。</p>	A

<p>P.62「市町村による利用促進の取組」の中で、バス料金の割引の実態について記載がありません。</p>	<p>P.62では各市町村が実施している公共交通の利用促進の取組の概要を紹介しており、こうした取組を踏まえて、幹線・広域・生活圏交通の交通モード間の利便性の向上に向けた取組を行ってまいります。</p>	D
<p>P.62「市町村による利用促進の取組」の中で、「GTFS-JP」と「GTFS-RT」の用語説明がありません。</p>	<p>ご意見のとおり、用語の解説を追記します。</p>	A
<p>P.70 住民アンケート調査について、コンサルタント会社に外注したと思われませんが、そのことが計画内に記載されていません。</p>	<p>本計画は公募型プロポーザルにより決定した委託業者により、調査実施等の支援を受けて策定しており、委託業者については、石狩振興局のホームページ内で公表しています。</p>	E
<p>P.74「調査結果の概要」の中で、「MaaS」のことが出てきていますが、高校生に対するアンケートで、「Maas」について、どのように説明したのか記載されていません。</p>	<p>高校生アンケート調査では、「MaaS」という用語は用いず、「スマホやPC等から複数の交通手段を組合せた経路検索や予約・支払いが一括で可能となる仕組み」と記載しています。 いただいたご意見を踏まえ、調査の詳細を明らかにするため、本計画の付属資料に調査票を追加します。</p>	A

※「意見に対する協議会の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見をを受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先
 さっぽろ連携中枢都市圏地域公共交通活性化協議会
 (石狩振興局地域政策課内)
 電話：011-795-9615(直)